

受講者	男性 21歳	知的障害軽度 (B2)
受講した訓練	障害者向け職業訓練 実践能力習得訓練コース (企業実習型訓練) 「リサイクル選別」	
受講の動機	以前より施設外実習をしていた経験があり、リサイクル業の就職を目指そうと思った。	
就職先の希望	希望雇用形態：特にこだわらない	希望職種：リサイクル作業の関係業務
就職の状況	訓練時同様のリサイクル分別作業に従事。当初のハンガー(金属金具の取り出し)・CD(ケース入り)の分別作業から、ドリル工具を使用するプラスチック製品や家具類の解体作業を追加した。解体作業は場所や方法について安全に対する理解ができるようになった。現在は作業の流れやサンダー用工具など安全に使用ができており、工具管理も任されている。	
就職先の評価	勤怠状況は真面目に通勤できており欠勤及び早退は無い。有給休暇を上手に使って良好に日常生活をコントロールしており安心している。物品入荷時には積極的に荷下ろし等を行い業務の幅が広がっている。電子機器の使用、朝昼礼の指示理解、日割計画の確認、保護メガネの安全着用など職場ルールが守れていて職場での戦力となっている。	

訓練の内容

■ 訓練の目標

主な訓練カリキュラム

- (学科) ・ 職場生活のルール習得 (挨拶・礼儀・返事・報告・出退勤など)
 ・ 安全と衛生について習得 (実際の事件事例紹介により理解する)
 ・ 基本業務作業についての理解 (選別の基本、材質ごとの分別方法)

- (実技) ・ 作業開始前の基本作業の確認
 ・ 製品分別の実施 (廃棄プラスチック、金属、紙の分別)
 ・ 習得状況の確認と対応 (習得状況を把握し課題の改善に取り組む)

(学科の訓練時間)	4.0時間
(実技の訓練時間)	229.0時間
(総訓練時間)	233.0時間
(訓練日数)	39日
(訓練期間)	2か月



■ 障害に対応した指導の工夫や配慮について

- ・ 製品別に解体方法や分別の仕方が分かるように、サンプル見本品を目の前に置くことで作業の効率を図った。
- ・ 工具の使い分けや保管等の管理ができるように、板ボードに使用する工具類を取り付けることで分かりやすく取りやすい工夫を施した。
- ・ 基本はひとり作業だが、ふたりペアで同じ作業を行うことで分からない事の相互確認ができ、安全と安心、孤立による不安の解消を図った。

■ 訓練の成果について (訓練機関より)

- ・ 気心の知れた同じ訓練生の方と一緒に作業をしている。2人一緒に行うことでコミュニケーションが図れることから、作業の理解や遂行意欲、安全に対する意識などレベルアップに繋がっている。
- ・ 休日には以前利用していた施設に訪問しており、職員や利用者の人達と楽しく会話をすることでストレスの解消ができています。施設利用仲間 (特に年下の方) からは自立した先輩として見られていることが、一般社会人として働く自信に繋がっている。